

鈴鹿市立天栄中学校 第2回学校運営協議会 報告書

- 1 日時 令和8年7月1日(水) 9:00～11:00
- 2 場所 鈴鹿市立天栄中学校(被服室および各教室)
- 3 議事

(1)授業参観の実施と評価観点

協議に先立ち、委員による授業参観を実施しました。以下の3つの評価観点に基づき、本校の教育活動の現状を詳細に確認しました。

生徒の様子	教員の様子	学校環境
・学習への主体的な取り組み状況 ・グループ活動における交流と活気 ・自発的な発言や質問の有無	・板書の分かりやすさと構成 ・タブレット端末活用の工夫 ・生徒の興味 ・関心を引く教材提示	・教室、廊下、トイレ等の衛生状態 ・空調設備による学習環境の適切性 ・掲示物の整理整頓状況

(2)授業参観後の意見交換

参観後の協議において、委員より以下の感想および具体的な改善に向けた指摘が出されました。

学習指導の試み

3年生の数学で導入されている「自由進度学習」は、生徒が自ら「一斉指導」か「自学自習」かを選択する形式であり、個別最適な学びを具現化する先進的な試みとして高く評価されました。

教科指導の特色

美術における彫刻の授業では、Google 等のデジタルツールで検索したデザインを柔軟に取り入れ、生徒の創作意欲と達成感を高めている点が注目されました。また、英語教育では「オールイングリッシュ」による指導がなされており、指示を英語で理解し行動する生徒の適応能力に感銘を受けたとの声がありました。

学習環境の現状と課題

肯定的な評価: 昨年度から整備が進んだ体育館への冷房設備により、酷暑の中でも生徒が落ち着いて学習に集中できる環境が整っている点や、廊下の整理整頓が行き届いている点が評価されました。

施設面での課題(「机上のスペース不足」): タブレット、教科書、ノート、ワークシートを併用する際、机上が極めて手狭になっています。端末が机からはみ出したり、積み重なった教材の上で筆記を余儀なくされたりしている現状があり、ICT 教育推進に向けた物理的な設備改善の必要性が浮き彫りとなりました。

清掃状況への指摘: 廊下の隅に黒い埃の塊が見受けられる箇所がありました。特に、給食配膳台の最下段(床から約 15cm の棚)に埃が堆積している点は、衛生管理の観点から改善が必要であるとの指摘を受けました。

(3)各学年からの報告

各学年担当教員より、学年の様子が報告された。

1年生より

体育祭等の行事を経て学級の枠を超えた交流が進み、授業中の発言も活発です。一方で、放課後に公共の場で騒いだり、遊泳禁止区域へ立ち入ったりするなど、社会的なマナーに課題が見られます。「知らなかった」では済まされない公の場での振る舞いについて、継続的な指導を行っていきます。

2年生より

名古屋での分散学習(社会見学)を時間通りに成功させるなど、集団としての安定感が少しずつ見受けられました。しかし、多人数になると気が緩み、セルフコントロール(ブレーキ)が効かなくなる「幼さ」もあり、個々の自己統制能力を高めることが今後の課題です。

3年生より

修学旅行や部活動(中体連)の区切りを経て、休み時間にも「高校見学の話題」が出るなど、進路意識(学習モード)への切り替えが見受けられます。自由進度学習などを通じて培った自律的な学習姿勢を、受験期に向けてさらに強化していきます。

○メディアコントロールへの意識変容

かつての「ノーマディア」ではなく、主体的に利用を制御する「メディアコントロール」の習得が不可欠です。特に「AI ネイティブ」として育つ生徒に対し、保護者世代が知識不足から混乱や不安を抱いている現状があり、学校側がいかに橋渡しを行うかが重要となります。

○生成 AI の活用と研究指定

鈴鹿市教育委員会の研究指定校として、生成 AI を単なる「答えを出す道具」ではなく、その限界やリスクを理解した上で使いこなす力の育成に取り組めます。人間にしかできない「思考」の重要性を説く指導を重視します。

○次期学習指導要領への備え

技術・家庭科から「情報技術科」が独立する次期学習指導要領を見据え、本校では専門性を活かした情報教育の強化を図る方針です。

(4)今後の予定と小中連携の推進

地域全体で子どもを育てる体制を強化するため、以下の活動を推進します。

挨拶運動：生徒による出身小学校への訪問と交流の実施。

校区教職員合同研修会：8月に実施し、不登校対策や人権教育における連携を確認。

拡大協議会(10月予定)：地域住民、保護者、教職員が一同に介する場としての準備。

(5)義務教育学校への移行に関する要望事項

義務教育学校への移行および校区再編という大規模な制度変更を控え、委員一同より教育委員会に対して以下の通り強く要望します。

【提言】決定事項の伝達のみならず、検討の「プロセス」の可視化を求める

- ・行政側で「現在何が議論され、何が決まっていないのか」という段階的な経過を、保護者や地域住民に対して丁寧に、かつタイムリーに説明する機会を設けること。
- ・制度変更に伴う不安(通学路、教育内容、コミュニティの変化等)を放置せず、双方向のコミュニケーションを通じた透明性の高い情報発信を強く要望する。

地域や保護者が抱く「いつの間にか決まっていた」という不信感を未然に防ぎ、建設的な移行期間を過ごすために、行政側の誠実な対応を求めている方針です。